



湘北短期大学図書館
としよかんNEWS

vol.132
2019.10.10発行

図書館活動をサポートしてくれる「図書委員会」をご存じですか？正式には2018年度から学友会の委員会として発足しました。その前身は、「さぼ一ち倶楽部」。ボランティア団体として10年以上もの間、図書館をサポートしてくれました。

発足からまだわずか2年目の「図書委員会」が、今、どのような活動を頑張っているのか、その一部をご紹介します。

図書委員会

ビブリオバトル“おためし編”9/18(水)図書館で開催！

～意外な本との出会い、楽しんでプレゼンスキルも身についちゃう！～



1. 自分がおすすめしたい本を3分で紹介

通常は5分、ネタバレなし、台本なしで紹介します



2. 1分間の質問タイム！

通常3分ですが…お試しなので今回は1分にしました



3. チャンプ本決定！（1位・2位）

読みたくなった本！を選考基準に全員が投票します



4. 賞品の授与

1位 図書カード 1,000円

参加者全員：湘北100pt

2位 図書カード 500円

ビブリオバトルのこんなイイこと！

- 本を通して、その人の人柄に出逢える
- あらたな、意外な本に出逢える
- 5分の語りを通して自分を表現できる
- 言葉で堂々とアピールできる
- プレゼンテーションスキルが向上する



「未来を決めるのは私だから」
王子様も魔法もいらない
とどろん 著

請求記号 【914.6/ト】

1位



「コインロッカー・ベイビーズ」
村上龍 著

請求記号 【文庫/む】

2位

「地縛少年花子くん」 あいだいろ 著

「妖怪アパートの幽雅な日常」 香月日輪 著

ビブリオバトルの誕生秘話

10年以上前に“いい本に出逢える仕組み”を“何か面白いやり方で”と京都大学のとある研究室で考案し、ビブリオバトルが誕生しました。即興性を大切にレジュメもなく本を紹介しあう。学生たちの実験的な積み重ねによって、現在のルールが生み出されたのです。

学生12名が紀伊國屋書店（新宿本店）で、魅力的な本を史上最多381冊選びました

“食欲の秋”におすすめ！料理・菓子・お茶・お酒・レシピ集などいかがですか？



- | | |
|---|--|
| 596/A たま卵ごはん：おひとりぶん簡単レシピ | 596.6/キ 悪魔のご褒美デビルサンド |
| 596/A 食べつなぐレシピ：漬ける、干す、蒸すで上手に使いきる | 596.6/ハ イギリス菓子図鑑 |
| 596/コ きのう何食べた？：シロさんの簡単レシピ | 596.6/モ 和菓子 modern style |
| 596/シ 組み合わせ自由自在作りおきおかず374 | 596.6/ヤ 透明和菓子の作り方 |
| 596/ド 土井善晴の素材のレシピ | 596.6/ワ レモンのお菓子 |
| 596/ホ 魔法使いたちの料理帳 | 596.7/イ Tea Time For You：毎日が幸せになる紅茶の愉しみ方 |
| 596/ユ Yuuのラクうまベストレシピ | 596.7/カ カクテルの図鑑ミニ |
| 596.2/コ すぐにおいしい！おつまみ200 | 596.7/カ カクテル完全バイブル |
| 596.2/ド dancyu 日本一の卵レシピ 愛蔵版 | 596.7/キ 基本をおさえてもっとおいしい紅茶一年生 |
| 596.3/コ この素材を使いこなす！人気料理家のなす・ピーマン・きゅうりのおかず | 596.7/ニ 紅茶の大事典 |
| 596.3/サ 365日アボカドの本 | 596.7/ニ 日本茶のすべて：茶葉の選び方と美味しく淹れるための知識 |
| 596.4/ク クックパッドのおいしい厳選！おつまみレシピ | 596.7/ニ 日本酒完全バイブル |
| 596.6/カ レモンのお菓子づくり | 596.7/モ もっと好きになる日本酒選びの教科書 |
| 596.6/キ フレンチアンティークなアイシングクッキー | 596.7/ラ コーヒーは楽しい！：絵で読むコーヒー教本 |



学生選書ツアー第30弾

場所：紀伊国屋書店 新宿本店

日時：2019年8月6日（火）



私たちが選びました！
史上最多の選書381冊。
図書館2階の展示コーナーで
絶賛展示中！

連載

Relay Essay No.48

「父親の本棚が教えてくれたこと」

保育学科 高橋 雅人

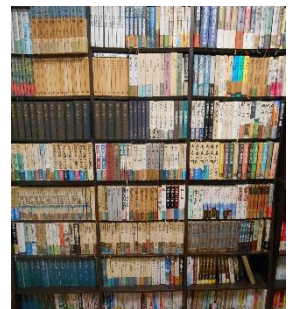
わが家には、古い本棚に白茶けた本が並んでいる。これらは、無類の読書好きである父親から受け継いだもので、吉川英治や司馬遼太郎、新田次郎など歴史小説が多くを占めている。窓から吹く風が古書特有の匂いを運んでくれると、片膝を立てて本のページを捲る父の大きな背中とその向こうに広がる煙草の煙、そして、壁一面に広がる大きな本棚が目に見えぬ。

父の本棚は、幼き私にとって見上げるだけの壁であり、触れることのできない結果であった。近所の人々が時々父の本を借りにきていた。その様子を見ただけで誇らしかったのを覚えている。もしかして、父は偉大なのかもしれない、いつか自分も父の本棚にある本を全部読むと立派な大人になれるような気がした。

あれだけ読書が好きだった父が、私に「本を読め」と強制したことは一度もない。逆に、父が読書を強制してくれなくてよかったと思っている。大人が夢中になっているものに子どもは自然と興味を示すものだ。

読書に限らず人に強制されることほど面白くない。そのことがわかったからだ。本を読むと偉大な大人になれるのかな…そう思わせてくれた父の本棚に感謝する。

そして、私は背丈で本棚を越えたが、父のことはまだまだ追い抜けないでいる。その父親も齢80を超え、今では人工透析をしている。視力も聴力も衰え足腰も弱くなった。今度、陽気の良い時に外に連れ出し昔話でもしてみよう。「今でも親父の本を読み返していると、親父が吸っていたハイライトの匂いが蘇るよ」と。まだまだ父から教えてもらいたいことがたくさんある。きっと、父は何も語ってくれないだろうが、私は伝えようと思う。父の本棚に感謝していることを。



ご自宅“父親の本棚”の一部